

一般教育等

General Education

一般教育等 開講ゼミナール一覧

荻野 富士夫.....	130
中村 史	131
沼田 ゆかり.....	132

1. 研究主題

日本近現代史の考察

二〇一四年度前期は鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫）をテキストに日本近代思想を概観するとともに、同書で取り上げられた思想家の文章・作品を味読した。後期は『北海道の百年』（山川出版社）を用いて、北海道史・北方史について考察した。二〇一五年度は黒川みどり・藤野豊『差別の日本近現代史』（岩波書店）を読み進めている。

卒論の執筆については、三年次前期に関心のある複数のテーマを探しだし、後期に一つに絞り、四年次には前期・後期数回の準備報告を経て、熟成していくかたちをとっている。

2. 指導要領

前期においては上記主題を中心に、後期は卒論報告・卒論予備報告を中心におこなう。三・四年の合同ゼミによって進める。ゼミ内定者については、12月から数回、プレ・ゼミをおこなう予定である。

3. 指導テキスト及び参考書

『差別の日本近現代史』のあとは、相談して決定。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接により決定する。

5. 面接・テスト等の日時・場所

所属希望者は、各自の志望の動機・歴史に対する見方などを1000字程度にまとめ、11月2日までに、ogino@res.otaru-uc.ac.jp に送付のこと。

11月10日（火）13時より、ゼミ室（192）において面接をおこなう。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

最終的に満足すべき卒論に到達するために、数度の報告を課す。各自の主体的な取り組みがもっとも期待される。

オープン・ゼミにもぜひ参加してほしい。

1. 研究主題

このゼミのテーマは、サンスクリット語によるインド古典文学作品の研究である。

2. 指導要領

3年次には、主として、初級サンスクリット語の修得をめざす。4年次には、卒業論文作成、サンスクリット語による何らかのインド古典文学作品の日本語訳と考察、を行なう。

3. 指導テキスト及び参考書

サンスクリット語の入門書、英語辞書他、さまざまな文献を用いる。学生は本学・他大学図書館所蔵の文献資料を探索したり、購入したりする努力が必要である。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

10月27日から11月2日までにアンケートフォームにより本ゼミ履修を申し込む。11月9日から17日までに、下記1から4の内容について、レポート（2000字以上）を作成し、レポート提出ボックスに提出する。レポート提出と同時に、志望の旨を伝えるメールを（大学から与えられているメールアドレスを使って）担当者（中村史）に送信する。

レポートの内容は、

- 1 志望者のこれまでの古典語体験及び古典文学体験
- 2 このゼミでどのような卒業論文を書きたいか
- 3 これまでに大学でどんなことを学んだか
- 4 卒業後はどのような進路を考えているか

*主に1、2について書き、3、4は補足的に書く。

担当者の方でレポートをプリントアウトすることができませんので、メールに添付はしないで下さい。必ず志望者の方でプリントアウトしたものをレポート提出ボックスに投函して下さい。

5. 面接・テスト等の日時・場所

志望者のレポートを読み、志望者から送られて来たメールに返信して、面接等について相談する。4. 欄参照。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

このゼミではサンスクリット語によるインド古典文学作品の研究を行なう。こうした古典語の修得、古典文献の読解には相当な努力を要する。古典語・古典文献を愛し、さらに、強い意志を持つ学生に来てほしい。

教員名 沼田 ゆかり

1. 研究主題

- ・バクテリアセルロースを用いた材料開発

2. 指導要領

各自別の研究テーマを持ち、全員が異なる内容の実験を個別に行うこととなる。実験方法やデータのまとめ方など研究を行う上で必要な基礎知識・技術を指導する。実験結果について教員と個別にディスカッションを行い、研究の方向性の検討を適宜行う(研究テーマの近い他の学生と合同で行う場合もある)。1か月に1度、ゼミ内の報告会でそれぞれの研究の進捗状況を報告する。その他、週に1度、高分子関係書籍を用いて輪講を行っており、各自2～3週に1度発表の機会がある。

4年生はテーマの近い3年生の実験指導を行うことも有り得る。3・4年合同ゼミを予定している。

本学で所有していない装置を用いた実験は共同研究先で行う。遠方の場合、旅費を支給します。<これまでの実績：走査型電子顕微鏡(北大・千歳科技大)、フーリエ変換赤外分光光度計(北大)、動的粘弾性測定装置(苫小牧高専)など>

3. 指導テキスト及び参考書

参考書

「絶対わかる高分子化学」齋藤勝裕・山下啓司著、講談社

「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方【改訂版】」岡崎浩司・隅藏康一著、羊土社

「ベーシックマスター生化学」大山隆監修、オーム社

「基礎からわかる機器分析」加藤正直・内山一美・鈴木秋弘著、森北出版

その他、適宜指示する。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

面接により決定する。

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接の日時を調整するので、連絡を取ること。

面接期間：11月9日から11月19日の内随時

面接場所：化学研究室(3号館1階)

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

化学IおよびIIを履修していることが望ましいが、化学の知識は問わない。未履修の場合、2016年度に履修すること。

一生懸命に実験に取り組めることが必要である。本ゼミの実験は適切なサンプル調製条件や測定条件の検討が必要となるため、同じ条件もしくは少し条件を変えてサンプルを何度も調製、さまざまな装置の測定手法の習得が必要となる。そのため、同じことを繰り返し行うことが苦痛な人には履修を勧めない。

時間割上の「研究指導」の時間帯だけ実験を行っても全く研究が進まないため、各自が空き時間や講義後に実験を進める必要がある。つまり、実験室の滞在時間が長くなる。そのことを良く理解したうえで希望してもらいたい。

開講日時	木曜 4・5 講
在籍人数(3年生)	1人
男女比(3年生)	1 : 0
ゼミ室	3号館1階化学実験室
ガチ度	★★★★☆

Q. 先生はどんな人？

- ・ショートヘア
- ・(授業&研究室では) 白衣
- ・きれい好き (学期末大掃除)

< 2015年度年間スケジュール >

12~3	(前年度)
4	輪講研究
5	歓迎会
6	
7	検討会 ↓
8	サマニ 若手会
9	
10	論講
11	
12	忘年会
1	検討会 大掃除 ↓
2	
3	追いコン ↓

<ゼミの日常>

毎週担当者がレジュメをつくり発表する形で輪講を行います。
 論講後は各々の研究に取り組みます。
 研究を進めるために空講など好きな時間に実験室へ来て好きな時間に帰ります。
 和やかな雰囲気の中でです。

<卒業生の進路>

2014年度に開講されたゼミのため卒業生はまだいません。

<自由記入欄>

化学ゼミは普段何をしているの？ → ナメテコのお世話。
 高分子って何？ よくわからない...という人でも大丈夫。輪講で勉強しよう。
 実験室に通うことが多くなるのでそういう意味では大変かもしれませんが、実験が好きなら問題ないと思います。

言語センター

Center for Language Studies

言語センター 開講ゼミナール一覧

井上 典子.....136

小林 敏彦.....139

サーマン・ジョン.....141

羽村 貴史.....142

マーク・ホルスト.....143

教員名 井上 典子

1. 研究主題 英語史と英文学

今日、英語はグローバル言語となりビジネスの世界では必須の言語となりました。しかし皆さんは、長い英語の歴史の中で、英語ではなくフランス語がイングランドの公用語であった時代があったのをご存じでしょうか？また綴りも発音もイングランド各地で多様に異なる時代、今私たちが使っている英語とは語彙も文法も大きく異なる時代がありました。英語はどこから来て、いつ始まり、どのような変遷を経て、現在私たちが知っている英語となったのでしょうか？そして各時代の文化や思想はどのようなものだったのでしょうか？各時代の文学作品を深く読み解くことで、その時代のイングランド（またはアメリカ）の社会、文化、思想が見えてきます。英語の変化・変遷の歴史を知ることによって英語ということばをより深く理解し、文学のことばを分析することで、実用的な言語の訓練だけでは養うことのできない、英語に対する鋭い感性と深い認識を習得することが目標です。

また、実践的なコミュニケーション力を高めるため、他学科のゼミとの合同ディベート大会（英語ディベート・日本語ディベート）を年に数回行います。

2. 指導要領

このゼミは、英語がゼミの公用語です。英語のテキストを使用し、発表やディスカッションもすべて英語で行います。

3年次では、初学者に親しみやすい英語で書かれたテキストを用い英語史の基礎を学びながら、各時代の代表的な英詩を韻律、語彙、文体面などから多角的に分析していきます（時代によっては、小説の短編などを取り上げる場合もあります）。毎回、テキストの指定された範囲の内容および指定された英詩を担当者が授業で発表し、その後ディスカッションを行います。発表者以外の受講者も全員、同様の箇所または詩に関するレポートを作成し、それを持参して授業に臨んでください。

またこの他、3年次のゼミ活動には、年に数回行われる、他学科のゼミとの合同ディベート大会（英語および日本語）に参加することが含まれます。また、ゼミ時間帯以外の活動も含まれます。例えば、今年度、「地(知)の拠点整備事業」の一環として、「天狗山と山手エリアのグローバル観光推進への取組」プロジェクトが採択されたことを受け、天狗山エリアの英語観光MAP（パンフレット）作成などを中心とする課外活動に取り組んでいます。

4年次からは、自分の選択したテーマまたは文学作品を集中的に読んでいき、卒業論文の作成に取り組めます。各自のテーマを定期的に発表してもらい、その発表に対し意見交換を行います。

3. 指導テキスト及び参考書

英語史に関しては英語のテキストを使用します。英詩に関しては、古英語から現代英語まで各時代の代表的な作品を読んでいます（随時プリントやメールで配布）。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書と面接（英語でのプレゼンテーションを含む）によって選考します。

(1) 志望理由書

<記載事項>

- a) 氏名・学籍番号・所属学科
- b) メールアドレス（携帯のメールでも構いませんが、PCからのメール受信が可能なもの）
- c) 井上ゼミを志望する理由と自己紹介・アピール（日本語で結構です。）

<書式>

すべて自由です。

(2) 面接

面接の最初に、10分程度の英語によるプレゼンテーションを行っていただきます。

<プレゼンテーショントピック>

井上ゼミを受講したい理由や抱負、自己紹介・アピール、将来の夢など。

面接までに、パワーポイントを使ってプレゼンの準備をしてください。面接当日は、ファイルを保存したメモリースティックを持ってきてください。

プレゼンを行っている間は、ご自分の原稿やメモを見ることはできませんので、十分練習をして臨んでください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

(1) 志望理由書の提出

締切：11月2日（月）

提出方法：Eメールで提出してください。

提出先：noriko-i@seagreen.ocn.ne.jp

(2) 面接

面接日時：

11月10日（火）14：30-17：00 および 11月12日（木）14：30-17：00

上記の日程で、都合の悪い日時がある場合は、必ず志望理由書に書いてください。

面接場所：

井上ゼミ室（3号館3階 327号室）

面接希望者は、できる限りオープンゼミに参加してください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

このゼミは、英文学、英語史を学ぶことで英語に対する深い知識を習得する一方で、英語でのプレゼンテーションやディベート大会、プロジェクトなどを通して実践的なコミュニケーション力を高める訓練を行い、英語の運用能力と知識を総合的に高めることを目標としています。英語という言語に真剣に向き合い、自分の人生の可能性を広げたいという人を歓迎します。質問があればメール等で気軽に聞いてください（noriko-i@seagreen.ocn.ne.jp）。

開講日時	木曜 4・5 講
在籍人数(3年生)	7 人
男女比(3年生)	2 : 5
ゼミ室	3号館 3階 327 教室
ガチ度	★★★★☆

Q. 先生はどんな人?

ワイン大好き ♪
 オシャレ ♪
 働くママさん!!
 実は...
 関西出身 oh!!



< 2015 年度年間スケジュール >

12~3	(前年度)・新歓, 新年会
4	・テキスト輪読
5	↓ ・ディベート(日①)
6	↓ 〃 (英①)
7	↓ 〃 (日②)
8	・飲み会 in 手稲(笑)
9	・通訳アルバイト(3日間)
10	・天狗山プロジェクト 〃 (日③)
11	↓ 〃 (英②)
12	↓ 〃 (日④)
1	↓
2	ディベートの後には
3	打上げがあるかも...云々

<ゼミの日常>

前期: 英語史について
 presentation & summary で学習
 後期: プロジェクト
 (今年是天狗山をグローバル観光地化)
 通年: ディベート
 (日本語×4, 英語×2)

<卒業生の進路>

このゼミは2年前に開講したため、
 まだ卒業生はいません。現在の3・4年生の希望進路は
 大学院進学, 通訳者,
 公務員, 民間企業 etc

<自由記入欄>

井上ゼミでは、少人数で! 男女仲良く! 楽しく英語を勉強しています!!
 課外活動として通訳アルバイトなど、英語のスキルを活かせることにも挑戦します。

英語/英文学に興味がある方、英語のスキルを高めたい方、お待ちしております ☺
 留学希望者も WELCOME!

ゼミオープンゼミに来てください〜

1. 研究主題

心身ともに強靱で世界に英語で発信できる日本人を育成
7分野21ジャンルの談話分析 -- 言語を分析し、進化させる --

2. 指導要領

「言語を分析し、進化させる」をテーマに、以下の7分野21ジャンルを研究対象に、「データの収集、分析、創造」の流れを基本とし、今そこにある英語の真の姿を正確に把握する研究力、および、自律的英語学習を通じて、将来英語を武器にしてビジネス、教育、研究、マスコミ、出版、芸能エンターテインメント、スポーツ界で国際的に活躍できる英語力を有した、世界に発信できる強靱な心身を備えた人材を英会話セッション、談話分析、洋画・海外テレビドラマ鑑賞を通じて育成する：

1) 洋画 (Music)

1 歌詞(Lyrics)分析 2 音声分析 3 歌詞作詞

2) 洋画 (Movie)

4 台詞(Script)・字幕(subtitle)分析 5 比較文化 6 脚本(Screenplay)執筆

3) メディア (Media)

7 広告分析 8 掲示物分析 9 批判的談話分析 (CDA: Critical

Discourse Analysis)

4) ビジネス (Business)

10 ビジネスライティング 11 ケーススタディ 12 ビジネスプラン

5) 目標言語(Target Language)

13 口語英文法 (CEG: Colloquial English Grammar) 14 使用頻度分析 15
語用論 (Pragmatics)

6) 中間言語(Interlanguage)

16 第二言語習得 (SLA: Second Language Acquisition) 17 学習者方略
(Learner Strategies) 18 自律的学習 (Autonomous Learning)

7) 語学教材(Materials)

19 教科書分析 20 教材開発(Materials Development) 21 教授法開発

3. 指導テキスト及び参考書

KOBA本

4. 選考の方法 (面接・テスト等)

書類選考、筆記、面接、実技試験

5. 面接・テスト等の日時・場所

一次試験：筆記（英語で詳しい自己紹介、志望動機、選考将来の夢を書いてメールで2015年11月9日月曜日までにtoshi84123@res.otaru-uc.ac.jp)に送付し、合否の判定の返信を待つこと。

二次試験：2015年11月12日木曜日午後2時半時よりKOBAゼミ室（256）
筆記試験、集団面接（英語で質疑応答）、実技試験（体力テスト）

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- 1) 本ゼミを第一志望の者のみ申し込み可能とする。
- 2) 現在留学中で海外に滞在中の者の申し込みは不可とする。
- 3) 募集は7名以下、二次試験は行わない。

詳細と変更点は、以下で常時チェック：

<http://www.ne.jp/asahi/toshi/koba/>

<http://www.ne.jp/asahi/toshi/koba/kobaseminar.html>

1. 研究主題

外国語教育方法の研究

TBLT・タスクによる外国語教育方法

外国語教室上のモチベーション(motivation)・態度(attitude)の研究

外国語教室上の量的調査方法

2. 指導要領

3年次は講義を受ける。卒論の内容を考える。

3. 指導テキスト及び参考書

配布物

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由、自己紹介、研究希望をA4用紙1枚程度にまとめ、サーマン研究室（4号館・452）へ提出してください。

入ゼミ好ましい条件：

1. 英語教育法Iを履修した人又は履修つもり人
2. TOEICスコアが650点以上の人

5. 面接・テスト等の日時・場所

未定

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

特にありません。

1. 研究主題

英文学と文化批評を中心に学ぶことで、人種、ジェンダー、階級等の政治的な視座から、もろもろのテキストを文学的に分析し批評する訓練を行います。表面上の物語内容や可視的な文化事象にかぎらず、テキストの深層構造をも読み解けるようになるよう、楽しみながら一所懸命に取り組んでほしいと思います。哲学、文学、歴史学など、人文学分野に強く関心があり、とりわけ文学作品を読むのが大好きな人を歓迎いたします。

2. 指導要領

英文学の研究では、短篇の詩と小説を中心に、英語原典の講読とテキスト分析を行います。また、文化批評の研究では、和英両語で論文の講読と内容吟味を行います。初学者でも愉しく学べるテキストを厳選し、丁寧に指導しますから、かぎられた時間で最大限の成果をあげられるよう、きちんと学習してください。

3. 指導テキスト及び参考書

後日指定。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書および面接。

5. 面接・テスト等の日時・場所

- ・面接日時は後日指定。
- ・11月9日（月）夕方までに、志望理由書1枚を電子メールで送付してください（hamura@res.otaru-uc.ac.jp）。興味関心のある分野を中心に述べてもらえたら参考になります。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・卒業論文については、英文学研究のほか、表象文化論（映画、写真、絵画、漫画、音楽、スポーツ等）、日本文学研究（近現代のみ）、性文化論、民族文化論、歴史認識論、宗教学など、羽村に理解できる範囲であれば、学術的であるかぎり何を研究主題に選んでもかまいません。
- ・前もって個別に相談・質問したい場合は、「hamura@res.otaru-uc.ac.jp」または水曜日昼休みか月曜日5時時間目に言語センターにて。

1. 研究主題

社会言語学: 社会的要因がどう人々が言語を使用する方法に影響するかを研究します。

2. 指導要領

⇒ This seminar has two goals.

(1) To develop your academic and research skills. You will improve your logical and critical thinking skills through collecting and analyzing language data (written and spoken). You will also investigate topics from different perspectives and be capable of explaining your opinions to others logically in both Japanese and English.

(2) To introduce you to the fields of Sociolinguistics and Applied Linguistics by exploring the following themes: (i) How does situation change your way of speaking?; (ii) How do we learn languages?; and (iii) How has the English languages developed over time?

⇒ In the 4th year, you will carry out your own research project about Japanese or English language in use. You will do this by observing and recording natural conversations, by carrying out surveys and interviews and by finding out information from academic and official sources. Your findings will be written up as your graduation dissertation

⇒このゼミの目標は以下の二つです:

(1)アカデミックな面でも通用する、言語能力一般の増強。このゼミでは、具体的・実質的なデータに基づいてのロジカルシンキングや、クリティカルシンキングができるようになること、また、あらゆるデータをどのように分析するか分析能力を養うことを目的としています。加えて、様々な事柄について多角的な視点や意見を持つこと、その考えを日本語・英語問わず、相手に伝わる論理的な説明に置き換えられることもできるようになります。

(2) 社会言語学、応用言語学という分野の学習。ゼミ内では、通じて次のような社会言語学のテーマを取り上げます。(1)会話の状況により、話し方や語彙選択にどのような影響が与えられるか。(2)生涯を通じて、あるいは第二言語としての言語学習はどのように行われるか、行われるべきか。(3)英語という言語は、現在までどのように発展してきたのか。

⇒四年になってからのゼミでは、三年生で習得した知識や経験を利用して、自らの日本語、あるいは英語の使用という観点から研究を行います。自然体の会話を観察・録音したり、実際に調査を行ったり、またあるいは他の論文や研究、公的資料から情報を得たりすることが研究の主な方法になり、その結果や結論は、卒論と

3. 指導テキスト及び参考書

以下の教科書はクラスに使用されるでしょう:

- Wardhaugh, Ronald (2009) *An Introduction to Sociolinguistics*. Oxford: Blackwell.
- McIntyre, Dan (2009) *History of English: A resource book for students*. Oxford: Routledge

4. 選考の方法 (面接・テスト等)

1. 次のテーマで、英語で800 words以上のエッセイを提出してください。

Explain one aspect of language or language use that you want to research and why.

11月2日 (月) 16時に研究室359に随筆を提出してください。

2. 英語能力、モチベーション、および思考力を評価するインタビューがあります。

5. 面接・テスト等の日時・場所

インタビュー時間: 11月9日(月)～11月19日(木)
場所: ホルスト研究室 (359)

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

a) このセミは以下の人々に特に向いています。

- 外国語の勉強が楽しい人。 - 異文化間コミュニケーションに興味を持っている人。
- 将来、英語の教師として仕事がしたい人。 - 空想をするのが好きな人。

b) The main language of this seminar is English.

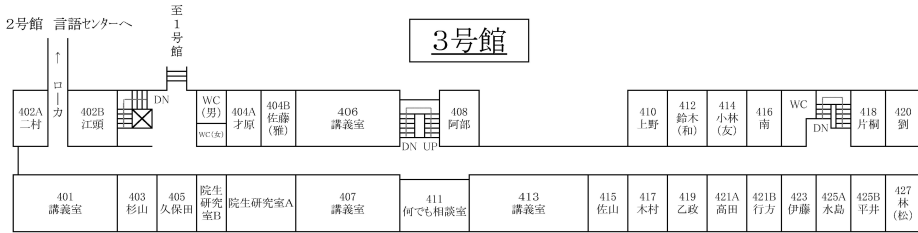
c) セミは毎週木曜日の14:30～17:15に行きます。

何か詳細が必要でしたら、ホルスト先生に連絡してください。Please feel free to visit us any-time.

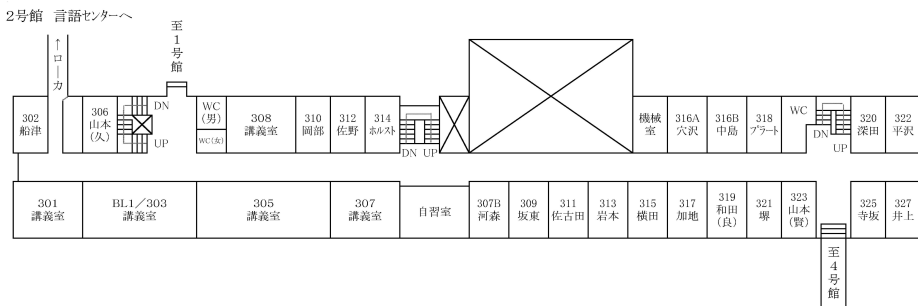
内線番号: 5443 研究室: 359 ゼミ室: 314
email: markh@res.otaru-uc.ac.jp

[MEMO]

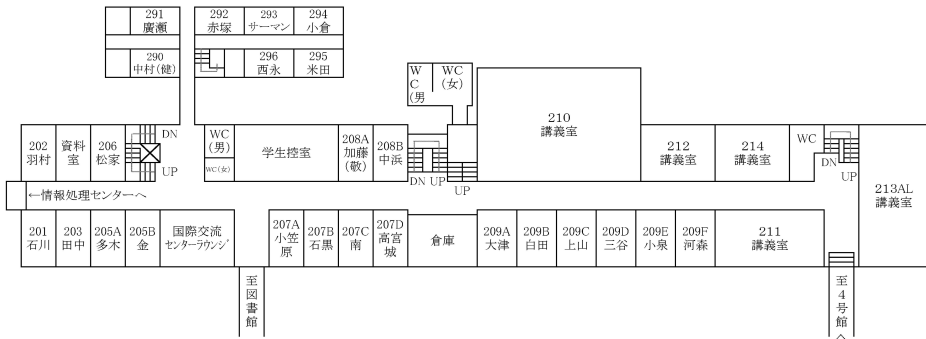
平成27年度 講義室・ゼミ室配置図



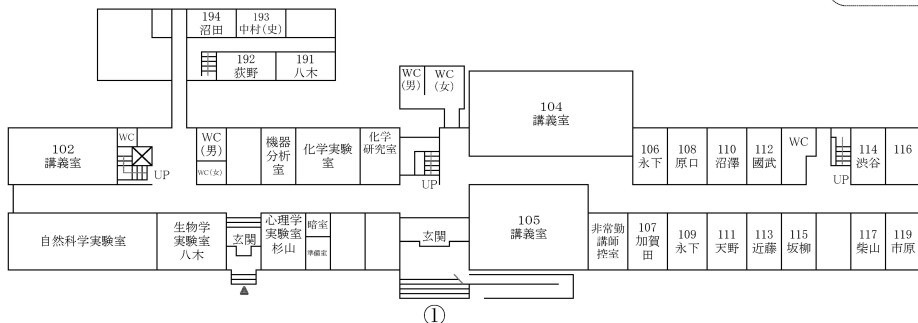
4階



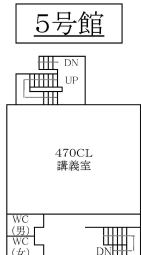
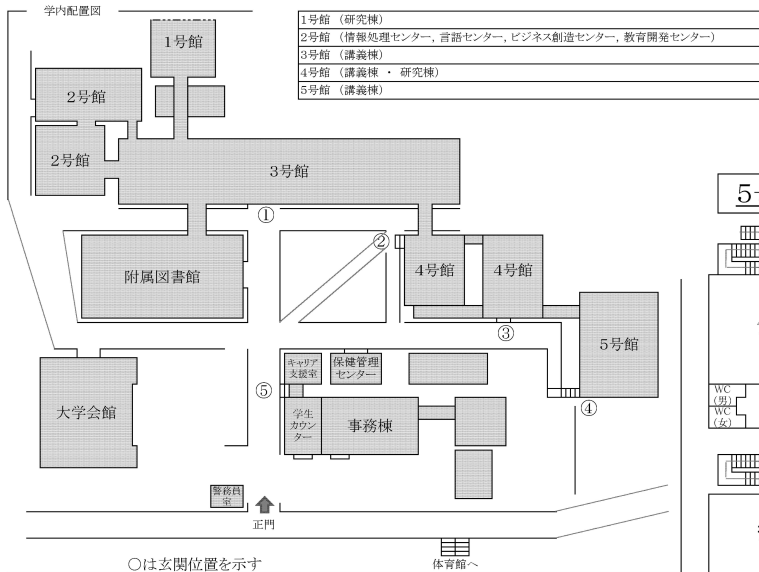
3階



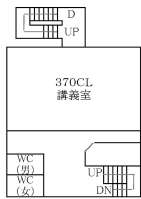
2階



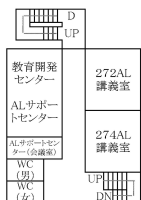
1階



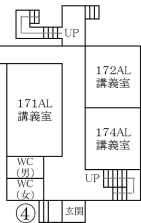
4階



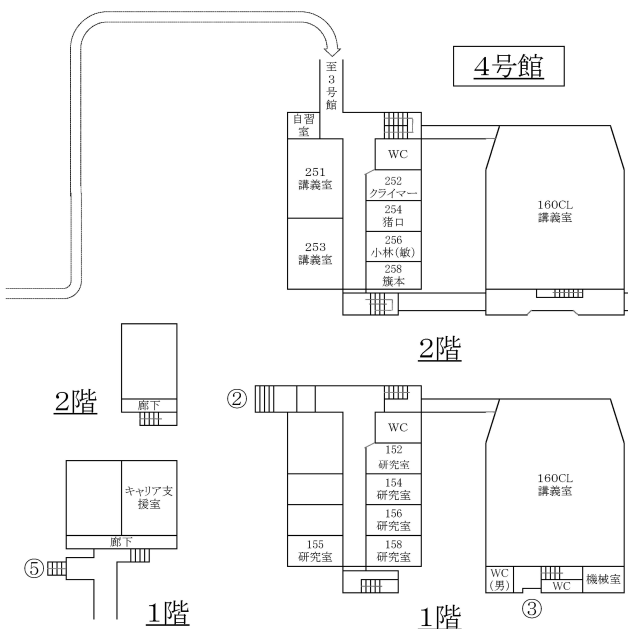
3階



2階



1階





『昼間コース・ゼミナール紹介本』2016

発行日：平成27年9月27日

編集者：稲童丸 翔

発行者：稲童丸 翔

発行所：小樽商科大学 学生自治会事務局

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

小樽商科大学 大学会館2F自治会室（内線：6550）

許可なく本書の一部または全部を複製することを禁ず。